

# 高品質米生産の第一歩は適期は種から

## 令和5年産米の重点技術対策

目指す稲づくり：異常気象に対応できるコンパクトで丈夫な稲づくり

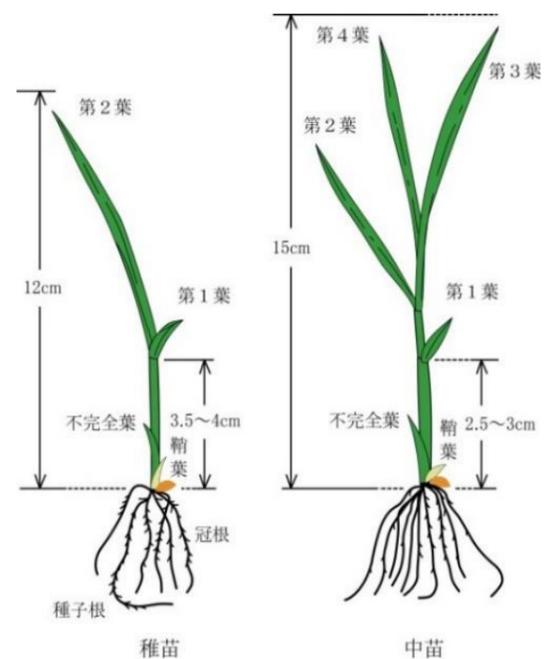
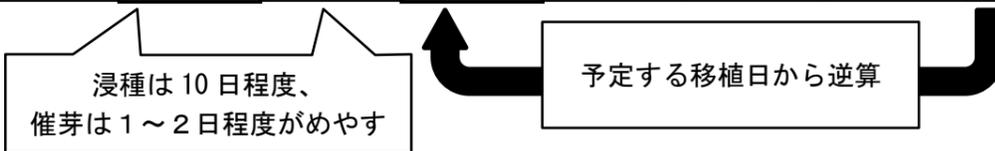
- ・ 近年コシヒカリを中心に収穫が早すぎ、高温による品質低下が起きやすくなっています。品種に応じた適正な時期に移植し、品質・収量の向上を図りましょう
- ・ 籾数の過剰による品質の低下を防ぐため、適正な施肥と適期中干しを実施しましょう

## 1 育苗作業計画

- 移植日から逆算して作業計画をたて、は種(浸種)時期が早すぎないように注意しましょう(表1)
- コシヒカリは早すぎる出穂を避けるため、平坦地では5月10日以降に移植することとし、は種は4月20日以降となるよう計画しましょう。
- 育苗期間のめやすは、稚苗(加温出芽ハウス育苗)で18日程度、中苗は30日程度です。無加温育苗は2日程度長くなります。
- 規格苗の葉齢は、稚苗2.0葉、中苗3.5葉がめやすです(図1)。
- は種(浸種)時期が早く、育苗日数が長くなると老化苗となり、本田での初期生育不良、生育の後ずれにつながります。

【表1】 コシヒカリの育苗スケジュールの例(平坦地・稚苗育苗の場合)

育苗方式	浸種	催芽	は種	出芽	緑化	硬化	移植
加温出芽ハウス	4/15~	4/25~	4/27	4/27~	4/29~	5/2~	5/15
無加温出芽ハウス	4/13~	4/23~	4/25	4/25~	4/29~	5/2~	
加温出芽露地プール	4/13~	4/23~	4/25	4/25~	4/27~	4/30~	



【図1】 規格苗(左:稚苗、右:中苗)

## 2 種子予措・は種作業

### (1) 種子消毒

- 近年、温湯消毒の普及に伴い、褐条病(葉鞘がすじ状に変色し枯れる)、ばか苗病(苗が異常に徒長)などの発生が見られます。温湯消毒の単独処理では防除効果が十分に得られない場合があるため、微生物農薬との体系防除を実施しましょう。

### (2) 浸種

- 水温は10℃~15℃で積算水温100℃がめやすです。
- 浸種には必ず清水を用い、水量は籾容量の2倍程度(種子1kgに対して約3.5リットル)とし、酸素不足を防止しましょう。
- 特に、浸種初日の水温が10℃より低い場合は発芽不良を起こす場合があるので、必ず温度を確認し低温とまらないよう注意しましょう。

### (3) 催芽

- 温度は30℃、1~2日をめやすに行います。
- 「コシヒカリ」、「つきあかり」、「五百万石」などは休眠が深い品種のため、催芽不足に注意しましょう。
- もち品種は発芽しやすいため、芽の伸ばしすぎに注意しましょう。
- 鳩胸状態の籾が80%程度になったら催芽を終了します(図2)。



【図2】 鳩胸状態の籾

### (4) は種

- 厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の発生に、また極端な薄まきはマット形成不良の原因となります。育苗様式に合わせては種量を調整しましょう(表2)。

【表2】 一箱当たりのは種量のめやす(g)

主な品種	区分	乾籾	催芽籾
コシヒカリ こしいぶき	稚苗	130~140	160~175
	中苗	80~100	100~125
つきあかり みずほの輝き	稚苗	145~155	175~190
	中苗	90~110	110~135